

第4次堺市スポーツ推進プランについて＜骨子案＞

◆計画策定の趣旨

- 現行の堺市スポーツ推進プランが、令和3年4月から令和8年3月末までの計画期間を満了することに伴い、次期計画（**令和8年4月から令和13年3月末**）の策定を行うもの。
- 計画期間に実施した事業等の総括を行い、新計画における新規事業、継続事業を検討する。
実施事業等の検証・堺市民のスポーツと健康に関する市民意識調査の結果及び社会的潮流等を踏まえて、堺市スポーツ推進審議会・堺市教育委員会で審議し、策定する。

◆現計画の総合目標

- (1) スポーツ・運動習慣者（1回30分以上の運動を週2回以上行う者）割合：令和7年度 **50.0%**
※1日に複数回に分けて合計30分以上の運動を週2回以上している場合も含む。

【目標達成】

平成29年度：23.7%
令和6年度：56.3%（↑32.6ポイント）

【主な取組】

- ・家族で参加できるスポーツイベントの開催
- ・スポーツイベント情報や施設情報の発信
- ・市民参加型の大規模イベント（市民オリンピック、市民マラソン等）の開催

- (2) 市内体育館等スポーツ施設利用者数：令和3年～7年度の5年間で**100万人増**（1685万人）

【目標未達見込み】

平成27～令和元年度：1585万人（基準）
令和3～令和6年度：1078万人（4年間）
～未達成理由～
・新型コロナウイルス感染症による施設の臨時休館及びコロナ禍以降の利用者・観客数の減少等

【主な取組】

- ・大浜体育館・大浜武道館のリニューアルオープン
- ・大規模スポーツ施設における全国大会の実施
- ・指定管理者による民間ノウハウを活用した自主事業の実施
- ・市及び指定管理者の公式SNSを活用した情報発信

◆本市の現状と主な課題「堺市民のスポーツに関する意識調査」の結果より

○子育て世代（30～49歳）における運動習慣の更なる普及

- ・「1日30分以上の運動を週2回以上行う者」の割合が46.6%と全年代の中で最も低い。
- ・スポーツをしない理由の中で、「時間がない」「育児」が約半数を占め、「育児」については、全年代で最も高い。
- ・「これまで以上にもっと運動やスポーツをしたい」は36.7%と全年代で最も高い。

○ライフスタイル、ライフステージに応じた情報発信の必要性

- ・「運動やスポーツを実施したい」と思う市民の割合は8割を超えており、今後の活動に前向きである。
- ・「体力などに応じた、より効果的で無理のない、運動方法」についての情報を得たい割合が43.7%と最も高い。
- ・「年齢や体力などに応じてスポーツに親しむことができる機会の提供」を求める割合が37.6%と最も高い。

○市ゆかりのトップチームへの市民からの期待

- ・トップチームに「魅力を感じる」と回答した市民は6割程度であり、半数以上の市民が魅力を感じている。
- ・チームに期待する項目として、「優待観戦イベントの実施」及び「市民向けのふれあいイベントなどの実施」が約半数を占めた。

◆スポーツ庁の動向と最近のトレンド

○「Sports in Life」プロジェクトの推進

- ・スポーツ庁では、国民が多様な形でスポーツに親しむ社会の実現をめざし、企業、自治体、スポーツ団体、地域などが連携し、日常生活の中で運動・スポーツを取り入れやすい環境づくりを推進している。

○「スポーツ・文化・観光」の連携による取組の推進

- ・令和7年2月にスポーツ庁、文化庁、観光庁が包括連携協定を締結し、世界に対して日本の魅力を発信することにより、更なる訪日外国人旅行者の増加、国内観光の活性化を図り、これによる経済の好循環の実現をめざしている。

○若年層におけるスポーツへの関心の変化

- ・若年層が主要な情報源として利用しているTikTokやInstagramなどのSNSにおいて、「スケートボード」や「ブレイキン」等の動画再生数が野球やサッカーよりも多い。令和6年にスポーツ庁が実施した世論調査では、スポーツ・運動をしない理由のうち、「面倒くさいから」がもっとも多いことから、気軽にスポーツ・運動を実施できる環境が求められている。また、部活動の地域展開が進められているため、地域との連携強化を行い、子どもがスポーツ活動を行う機会を支える必要がある。

◆現計画の総括

現時点で、堺市基本計画2025のKPIに設定している「スポーツ・運動習慣者の割合」の目標値を超えており、スポーツ・運動習慣が定着している市民が増えていることから、**第3次スポーツ推進プランの基本理念や基本方針等の体系を踏襲する。**一方、施設利用者数については、コロナ禍の影響を大きく受け、目標未達の見込みであるため、新たな目標を設定する。また、本市の現状や国の動向、社会的潮流を踏まえ、以下の新たな視点に基づく取組を新計画に追加する。

◆新計画に取り入れる新たな視点

○年齢や体力の変化に応じたスポーツ・運動機会の提供及び情報発信

ビジネスパーソンや子育て世代など、運動をするための時間を確保しにくい年齢層に対し、日常生活の「すきま時間」を活用した運動や「ながら」でできる運動を推進する。また、高齢者などの体力が低下している層に対しては、ウォーキングなど低負荷で継続しやすい運動を推進することにより、運動習慣を根付かせる効果が期待できる。

○スポーツツーリズム

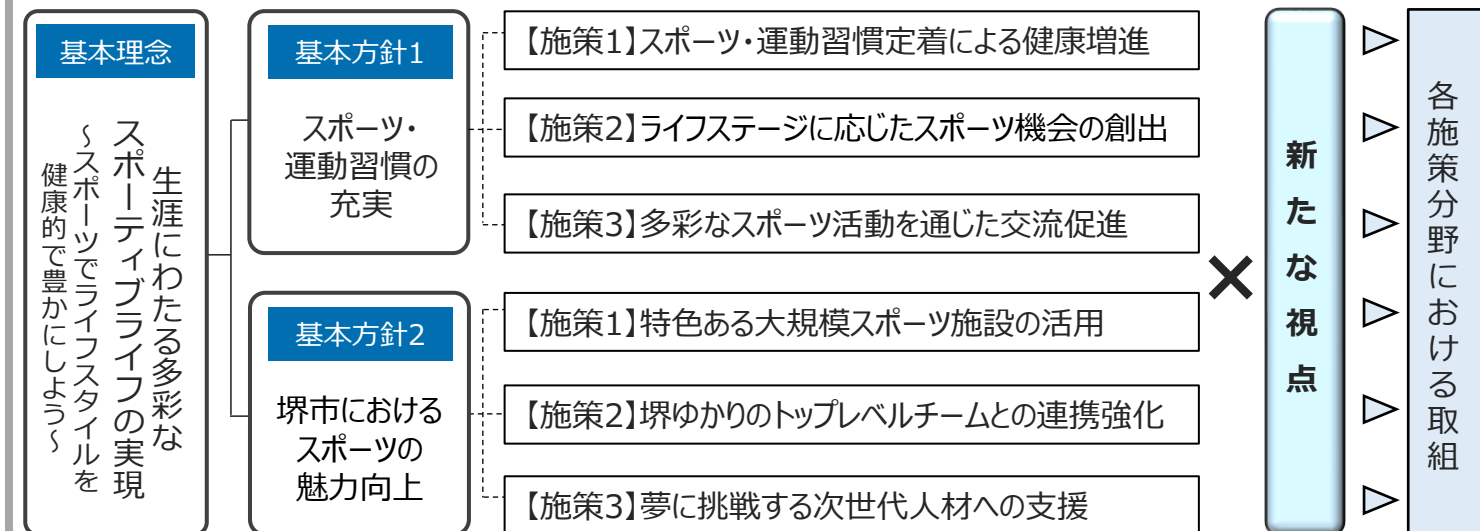
堺市にゆかりのあるトップチーム（日本製鉄堺ブレイザーズ等）の観戦ツアー等を実施することで、市民等の運動意欲の向上が期待できると同時に、トップチームのファンやサポーター等、市外からの訪問者や旅行者等を誘客し、地域経済の循環も期待できる。

○アーバンスポーツ

スケートボードやブレイキンなどの競技がパリ2024オリンピックで正式種目になったことで、近年注目を浴びている。さらに、単なる「競技」としてだけではなく、音楽・ファッション・アートが融合した「ストリートカルチャー」として、若年層からの支持が高く、気軽に行えるスポーツであるため、若年層のスポーツ・運動への関心の向上や運動意欲の促進が期待できる。

◆新計画の概要

■新計画の体系図



◆新計画における目標

目標① スポーツ・運動習慣者割合(※)
(1回30分以上の運動を週2回以上行う者)

目標② スポーツ・運動を週1回以上行う者の割合

目標③ 子育て世代におけるスポーツ・運動習慣者割合

目標④ 大規模スポーツ施設利用者数

(※) 1日に複数回に分けて合計30分以上の運動を週2回以上している場合も含む。